

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、小規模多機能型居宅介護と併設しております。コロナ禍で回数は減ってしまいましたが、行事やレクリエーション等、年間を通し利用者同士の交流が図れる環境です。その為、小規模多機能型居宅介護事業所を利用されている方のグループホーム入居希望もあり、馴染みの環境でスムーズに入居できています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍においても入居者の方々にストレスなく過ごしてもらえるよう車窓から景色を楽しんでもらうためのドライブをしたり、たこ焼き器等を活用した手作りおやつを提供に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目が届くよう、玄関に掲示している。自分達の介護を振り返る為に、毎月のミーティングで読み合わせしている。理念以外にも毎月の目標を決め、日々取り組んでいる。	開設当初から変わらない理念を掲げている。理念を実現するために、毎月の目標をミーティングで話し合い、職員間で周知し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで中止されていた地域の行事も徐々に開催されるようになってきた。6月に行われた合川駅祭りや、8月の子供会ねぶ流しに参加した。今後も、積極的に参加していきたい。	合川駅で開催されたお祭りを歩いて見学し、ねぶ流しはホームの敷地内まで入り披露してもらっている。プランターの花々は、自治会や婦人会が協力し植えてくれたとのこと。近くの小学校からは授業で作ったいぶりがっこやジャガイモの差し入れを窓越しに受け取り、感染対策をしながらつきあいを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナで地域との交流ができていなかった為、貢献できていない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催していたが、コロナの影響で開催できず、文書での報告で、直接意見等頂く機会がなかった。9月からは開催予定。	9月に開催する旨案内していたが、北秋田管内で感染症患者が増加していることがわかり、止む無く中止したとのこと。委員のひとりである自治会長には、報告書等を直接届け関係性の継続に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	センター長に運営推進委員になって頂いているが、会議を開催できていない。今後は、会議を開催し、意見やアドバイスを頂きながら協力関係を築いていきたい。	ホームに併設された地域福祉センターに、中部地域包括支援センターがあり、その都度状況等の報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内のマニュアルに沿い勉強会を行い実践している。	同法人内の3つのホームが集まり連絡調整会議を行い、マニュアルや指針等の見直しをしたり、事例検討により理解を深めたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修を行い理解に努めている。また、外部研修に参加した際は、他の職員にも落とし込みしている。 個々の利用者、家族等の環境を把握し、必要性の有無を相談できている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明し、納得のうえ同意いただいている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	苦情第三者委員による相談日を設け、利用者や家族から直接意見を聞く機会を設けた。コロナで出来ていなかったが、今年度は行う予定になっている。また、ご意見箱を設置し、頂いた意見を掲示するようにしている。	9月に相談会の開催を決定していたが、北秋田管内で感染症患者が増加していることがわかり、止む無く中止したとのこと。 タブレットによる面会やベランダのある窓越しに会話するなど、感染症対策を講じながら話をする機会を設けている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月のミーティングで意見や提案を話す機会がある他、年に1度個別面談を行い、出された意見をまとめ改善に努めている。毎月の運営会議でも意見や提案の機会がある。	利用者の心身状況の変化に応じて、椅子やテーブルの高さを変える要望が出されたり、畳交換の提案が出されたりしている。 ホーム内で新型コロナウイルス感染症が流行した後の反省会では、アイスノン等を保管するため冷凍庫の要望があり、購入の上設置されている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームと定期的に連絡協議会を開催し、活動の報告や意見交換等を行っている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面会し、本人の状況や意向を確認し不安等を受け止めていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族とも面会、若しくは電話にて意向や要望を確認し不安の解消に努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のニーズに沿えるようコミュニケーションを図り、簡単な作業等、無理なくできる事を手伝って頂き、役割を持って過ごしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、遠方のご家族には電話で日頃の様子を伝え気軽に話して頂けるよう努めている。毎月、お便りを送付し普段の様子を伝えている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	コロナで、家族との面会も制限していた為、これまでのような支援は出来なかったが、リモート面会や電話で関係が途切れないよう努めた。	コロナ禍前は家族や近隣住民を招いてだまご鍋を囲む会を開催して、喜ばれていた。A3版の大きな用紙に各利用者が写っているカラー写真を掲載したグループホーム通信を毎月発行しており、家族から好評を得ている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互い関心を持ち、声を掛けあえるよう見守り、介入している。孤立したりトラブルにならないよう座席を配慮している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に相談できる関係を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望にできるだけ沿えるよう、普段から症状を観察したり、ゆっくり話をするよう努めている。	テレビ視聴をきっかけに話題となった会話から、思いをくみ取っている。 普段の何気ないしぐさや会話等を通じた気付きを、気づき&連絡ノートに記し職員同士で共有しケアに活かしている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族から生活歴や個人史を聞き取り情報収集している。なるべく自宅と同じように過ごして頂けるよう心掛けている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	介護保険更新時は、家族、本人に意向の確認をしている。利用者に担当を設け、モニタリングを行ったり、毎月のミーティングで状況確認し作成している。	新規の利用者を病院から受け入れる際に、リモートによる面会を通じて現状を確認したり、入院中でもホームの看護師が病棟の看護師と情報交換をして状態を把握したりし、介護計画に反映している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に記入し、朝夕の申し送りで情報の共有に努めている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、出来なかった事がたくさんある。今後は地域に出向いたり、地域の方を招いたりしながら楽しんで過ごせるよう支援していきたい。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通院している医療機関を受診している。受診時は看護師が付き添い、本人に代わり現状を細かく伝え、適切な医療が受けられるよう努めている。また、薬の変更時は、薬剤師から説明してもいい、注意事項等を確認している。	利用者の心身の状態にあわせて、協力医療機関が往診に応じたり、重度化した利用者の家族に対し今後想定される症状の説明を行っている。 薬局が、糖尿病患者には処方されない内服薬に気付き、医療機関に問い合わせ対応してくれたこともあった。日頃から変更となった薬の注意点等を説明してくれるなど良好な関係にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、24時間連絡が取れる体制の為、利用者の体調について気付いた事は常に相談し指示を仰いでいる。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携室を通じ入院中の状況を確認したり、病棟看護師からも確認している。退院時はカンファレンスに参加している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合に係る指針を説明し同意を得ている。	利用者の状態変化に応じて本人、家族に対しその都度ホームですることができることを説明している。医療的な事柄は、協力医療機関の医師から症状を段階的に説明し、理解を得ている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救命講習を受講している。館内にはAEDが設置されている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火事や地震を想定した避難訓練を行っている。近隣の方に協力委員になって頂き、以前は避難訓練にも参加して頂いていた。	同法人内の3つのホームが集まる連絡調整会議において事業継続計画を作成し、人事異動による人員の変更や訓練後の消防署員からの助言の都度見直しを図っている。今年度は、ホーム敷地近くで熊が目撃されたことから、その対応について想定する必要があるとのこと。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊重した声がけに努めているが、強い口調や感情的になる事もある為、職員同士お互い声を掛け合いながら対応している。	ミーティング等で重要性を伝え共有しているが、対応に苦慮する場面があれば、ケアする職員が入れ替わるなどして対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれ自宅で利用していた化粧水やクリーム等を使用している。パーマや毛染め等、本人の行きつけの理美容室に定期的に行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜や旬の食べ物を献立にいれ、季節感を感じて頂けるよう工夫している。山菜の皮むき等も一緒に行っている。	ホームの畑で育てられた野菜を使用した献立が考えられていたり、家族から季節の旬を取り入れた漬物やジャム等が差し入れされたりし、利用者に喜ばれている。コロナ禍では外食が難しく、地元の仕出し屋から折詰を取り寄せるなどし、食事が楽しめる取り組みを実践している。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った量を提供し、食事量や水分量を毎日記録している。月末に体重測定を行い増減に注意している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は職員が介助し、口腔内の清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせた声がけ、誘導を行い自立に向けた支援をしている。	入所時にはリハビリパンツにパッドを穿いていた利用者について、状況を記録していくうちにトイレで排泄できていることがわかり、パッド等を止めた事例がある。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、体操を取り入れたり、毎朝牛乳を提供し、水分補給にも努めている。主治医からの内服薬で調整している方もいる。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の体調や意思に合わせて、週3回以上入浴している。	入浴を促す声掛けを工夫したり、入浴剤等で季節感を演出して、入浴が楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じ休息、睡眠できるよう支援している。不穏時は、眠くなるまでゆっくり話を傾聴し、安心して休めるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食堂に処方内容、副作用が分かるようにファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	水分補給の準備、裁縫、洗濯干し等、それぞれができる事を手伝って頂き、役割を持って過ごせるよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会が減ってしまったが、今後は外食や買い物等を再開していきたい。	コロナ禍や夏場の酷暑により思うように外出ができなかったが、敷地内や近所を散歩したり、ベランダや日陰に椅子を並べ外気浴したりすることで気分転換に取り組んだ。ホーム内でも楽しんでもらおうと、たこ焼き器を使って鈴カステラを作ったり、プリンに生クリームと果物をデコレーションするおやつ作りを企画した。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の依頼により施設で管理し、毎月、収支報告している。本人の希望で少額を自己管理している方もいる。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除や消毒を行い気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けている。食堂は、入居者の方々と一緒に作成しているカレンダーや装飾品で季節を感じて頂けるよう工夫している。	季節を感じてもらうため装飾に力を入れており、利用者に折り紙を折ってもらったり、毛糸を使った飾りを作ってもらったりしている。また、玄関の花瓶には生花が添えられている。概ね3部屋にひとつの割合でトイレがあり、夜間帯でも利用しやすいようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やロビーにはソファや畳みのスペースがあり、それぞれの過ごし方に合わせた居場所作りを心掛けている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や、家族の写真などを持ってきて頂き、居室に飾っている。	家族から贈られた花がたくさん飾られていたり、テレビの前にお気に入りの椅子が設えてあったりと、居心地の良い空間となっている。窓から畑の様子が見えるなど利用者に合わせて居室がある。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境をあまり変えないよう心掛けている。ご本人ができる事は継続して頂き、安全に生活できるよう努めている。		